

連盟だより

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

Japan Federation for Mental Health and Welfare



2015-7.3

通刊 53号



復光会の活動について

公益財団法人復光会 常勤理事

佐藤 譲二

■ 復光会のあゆみ

昭和26年、当時は敗戦による社会情勢が不安定で覚醒剤が巷に蔓延し、覚醒剤使用での犯罪や事件が多発し、覚醒剤乱用が社会問題化されていた時代に、船橋市にある閉鎖中の水産化学工業株式会社の土地・建物を病院に転換させられないかとの企画が当時新水産化学工業の役員であり、のちに2代目理事長となる松本淳治氏から出ました。昭和27年8月に発起人15名で、酒井忠正（元伯爵、貴族院副議長）会長、岡田文秀（元厚生次官）理事長のもと財団法人復光会が創立されたことに歴史が始まります。創業三原則「公益公共性を基とする・中毒性精神障害者の診療を特色とする・広く医界に貢献する施策を行う」を掲げ、昭和28年に「総武病院」、昭和36年に「垂水病院」、昭和43年に「社会精神医学研究所」、平成9年に「介護老人保健施設やすらぎ」を発足し、活動の規模を広げています。今回の公益法人制度改革により、平成25年4月1日より公益財団法人復光会として内閣府の認定を受け、新たなスタートを切ることになりました。

■ 現在の活動について

現在総武病院は471床の病床数で、開院当初の中毒性精神疾患を中心とした医療から時代の変化に対応し、現在では幅広い精神疾患を対象とした病院へと変貌を遂げています。急性期の患者を対象とした急性期治療病棟以外に、亜急性期治療病棟、療養病棟、メンタルケア病棟、シルバーケア病棟など患者の状態に合わせ機能分化された病棟編成となっています。また、デイケアや訪問看護に積極的に取り組むとともに、患者の自助グループや民間法人が行う社会復帰施設の支援に力を入れており、「長期入院」の解消に向けても努力しています。

垂水病院は、神戸市に麻薬専門病院として開院し、322床の病床数で、主に中毒性精神障害者患者を対

象とした病院として関西地区での役割を担っています。平成26年度の入院患者の約7割は薬物・アルコール依存症であり、地域の精神医療の中核を担える基幹病院として活動できるよう努力しています。

また、両病院は、平成17年に施行された「心神喪失者等医療観察法」で対象となる、殺人等の重大犯罪を犯した精神障害者の「鑑定」医療機関、「通院」医療機関になっており、司法機関と連携しつつ、社会の安寧、障害者の人権擁護に貢献しています。

社会精神医学研究所は、昭和43年から総武病院に併設されており、社会環境の影響を受けやすい精神疾患（認知症を含む）の発病、治癒、予後について調査研究を行い、年報として「紀要」を発刊しています。また、市民講座を年1回開催し、興味、関心の高いテーマを取り上げ、広く市民に公開しています。

介護老人保健施設「やすらぎ」は、平成9年に開設されましたが、認知症専門棟を有するなど、入所・通所を含め、認知症症状をもつ数多くの高齢者のケアに当たっています。認知症のケアは、精神科の知識・経験を有する熟練のスタッフが管理することが不可欠であり、精神科医師が専任の施設管理者を務めているほか、医療部長、看護部長なども精神科経験を有する者を当てるなど、精神科病院をもつ当会の強みを生かし運営しています。同一敷地間に所在している総武病院との連携では、認知症外来や認知症への取組み、また24時間体制（医師等の協力）の一体化を図っています。

今後も精神医療を行う総武病院および垂水病院を中核として、その機能を支える社会精神医学研究所、さらに精神医学との連携が不可欠な高齢者ケアとしての介護老人保健施設やすらぎを一体的に運営し、当会の定款に示す「精神の不健康状態を予防し、かつ有効適切な医療・介護・福祉および研究を行い、もって精神保健を強化し、人類の幸福に貢献する」目的のため事業を行っていきたいと考えています。

メンタルヘルスの集い（第29回日本精神保健会議）の報告 テーマ「もっと知って下さい！ 私たちのこと ～発達障害者のニーズと理解～」

公益財団法人日本精神衛生会 事務局長 伊藤龍彦

標題のメンタルヘルスの集いは、公益財団法人日本精神衛生会が、毎年3月に東京有楽町の朝日ホールで参加費無料で開催しているフォーラムです。このフォーラムでは、「こころ」をめぐる重要な問題について毎回テーマを設定し、精神保健福祉関係者、教育関係者はもとより、一般市民や当事者とその家族などが参加し、ともに考え、討論し、今後の課題や改善策を探ります。第29回目となる今回は、「もっと知って下さい！ 私たちのこと～発達障害者のニーズと理解～」のテーマの下、475名の方々にご参加頂きました。

2005年4月に発達障害支援法が施行され10年が経ちました。この間に、発達障害という言葉は国民の間に広く知れわたりましたが、これは“言葉を知っている”ということであり、“言葉の意味を知っている”ということではないと思います。発達障害は、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害などが含まれますが、もともと小学校低学年で問題化し、その適応の悪さから児童虐待、いじめなどの対象となり、ひいては不登校、ひきこもり、物質依存、理解できない犯罪などの結果を招くに至るだけに、学校のメンタルヘルスでその対応が急がれてきました。ところが最近、子どもだけでなく大学生や社会人でも、この問題に悩んでいる人が決して少なくないことが判明し、職場や地域社会でも看過できない事態を迎えています。

そこで今回のメンタルヘルスの集いでは、この問題にいち早く取り組んで、研究面でも実践面でも実績を上げている加藤進昌先生（公益財団法人神経研究所理事長・昭和大学発達障害医療研究所長）の特別講演と、お二人の当事者から日常生活での体験談をお聞きし、それにお応えするかたちでいろいろな立場で支援活動に携わっている三人の専門家によるシンポジウムという構成のフォーラムとしました。

特別講演で加藤進昌先生は、「わかったようでわかっていない大人の発達障害」と題し、約8年にわたる昭和大学烏山病院での臨床とデイケアを通して分かってきた大人の発達障害について、事例を上げて解説され、今後さらに解明を進めて発達障害者の方のお役に立ちたいと話されました。その後のシンポジウムでは、二人の当事者のご自身の体験に基づく発達障害者のニーズと理解について提言され、三人の専門家からはそれぞれ教育機関の取り組み、福祉現場からの提言、社会の取り組みの現状についてお話をいただきました。最後の総合討論では、加藤進昌先生にもコメンテーターとしてご参加いただき、参加者からの質問を中心に討論を行いました。このフォーラムが契機となって、社会の受け入れが改善されることが期待されます。

このメンタルヘルスの集いの内容は、当会が発行する「心と社会160号」（平成27年6月発行）に収録されています。

なお、次回第30回の「メンタルヘルスの集い」は、平成28年3月5日（土）に、今回と同じ有楽町朝日ホールで、参加費無料で開催される予定です。メンタルヘルスの集いと広報誌「心と社会」に関するお問い合わせは、公益財団法人日本精神衛生会事務局（電話03-3269-6932、z-seisin@dc4.so-net.ne.jp）までお願いします。



メンタルヘルスの集い（第29回 日本精神保健会議）

もっと知って下さい！ 私たちのこと ～発達障害者のニーズと理解～

日時 平成27年3月7日(土) 10:15～16:00 (開場9:45)
会場 有楽町朝日ホール(有楽町マリオン11F)
参加費 無料(事前予約不要・先着600名)

午前の部 (10:15～11:00)

◎ 特別講演 わかったようでわかっていない大人の発達障害

加藤 進昌 精神科医 公益財団法人神経研究所理事長
 昭和大学発達障害医療研究所長

登壇者 (11:00～13:15)
 午後の部 (13:15～16:00)

◎ フォーラム もっと知って下さい！ 私たちのこと
～発達障害者のニーズと理解～

(登壇者)

渡邊 典弘 大学職員 東京大学農学生命科学研究科
村上 由美 言語聴覚士 認定コーチング・スペシャリスト®
 (シンポジスト)

石橋 利紀 筑波大学副学長・利殖学校教育総務部長
加藤 潔 (社畜) はるにれの里札幌市自閉症者自立支援センター1F所長
堀江まゆみ 白梅学園大学子ども学部発達障害学教授
 (コーディネーター)

市川 宏伸 精神科医 東京都立小児総合医療センター顧問

◎ 総合司会 池田 真理 東京大学大学院助教

主催 公益財団法人 日本精神衛生会
協賛 厚生労働省 文部科学省 東京都 朝日新聞学生文化事業団 NHK厚生文化事業団
 メンタルヘルス支援本誌財団 明治堂こころの健康財団 ヤマト福祉財団
TEL 03-3269-6932
http http://www.jamh.gr.jp

総編集補助事業 http://www.keirin.jp/
http http://www.ringring-keirin.jp/



これまで、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病について医療連携体制を整備することが求められていましたが、平成25年度からは、そこに精神疾患も仲間入りすることとなりました。精神疾患も、ようやく他の病気と同じように扱われるようになってきたと言えます。また、精神保健福祉センターが担う保健と福祉の領域のうち、保健については、すでに従来から精神保健は保健所の仕事の大きな部分を占めており、市町村でもその役割を担うようになってきています。福祉については、平成18年から障害者自立支援法、平成25年から障害者総合支援法が施行され、身体障害や知的障害と同じ法律によってサービスが実施され、こちらはすでに市町村が中心的な役割を担うようになってきています。

このように精神疾患をとりまく体制が変化しつつ

ある中で、精神保健福祉センターの役割も、市町村など、住民の身近な場面にある関係機関を支援するというところに重きが置かれるようになってきています。ここ10年ほど精神保健の大きな関心事として自殺対策が取り上げられてきましたが、自殺対策では特に住民の身近な場面でのきめ細かな対策が必要です。全国の精神保健福祉センターでは、市町村を対象にした自殺対策の研修会などを開いてきましたが、当県ではさらに、個々の市町村に対して、適宜、メールなどを利用した助言や指導を行う仕組みを作るとともに、一部の市町村には、管轄する保健福祉事務所とも協力しながら、現場での支援を行いつつあります。福島県の人口190万人余りに対して、当センターの職員は10名ほどですが、こんな形で住民の皆さんの役に立つように取り組んでいます。



本協議会会長 吉川武彦先生は2015年3月に逝去されました。精神保健をライフワークとして、日本泳法に親しみ、東京都育成会の青年たちとの海外旅行を続けるなど、笑顔とところの自由さを大切に幅広い活動をされました。本協議会については、精神保健研究所長であった平成9年度から12年度、そして名誉所長になられた後の平成19年度から26年度のおよそ12年間、会長として本協議会をリードされました。

私は平成19年度からの8年間、事務局長として共に活動したのですが、本協議会が、各都道府県の精神保健福祉協会の横の連絡を取って、日本国民の福祉に役立つという目的をもとに設立されたという歴史を大切に、事務局サイドの提案をうまく応援して本協議会の発展に尽力されました。そして、本協議会の一般社団法人化、アートをとおしての精神保健の啓発研究、総会におけるミニレクチャーの実施など、本協議会の発展につながるいくつかの取組を実現されました。またこれまで印刷所に任せていた機関誌の「会報」と「地方精神保健」の題字を、本協

議会の常任理事会における提案を受け入れ、吉川先生の書字に改めることに同意されました。何より宝となったのは、「会報」の会長挨拶、ミニレクチャー「リーダーシップとガバナンス」、「地方精神保健」の巻頭言などに精神保健の歴史と課題をていねいに書き残されたことです。

私の友人である橋本康男氏は社会を変える力を「社会への良質な怒り」と表現しましたが、吉川先生はこれを「人材育成」と「愛」のかたちで表現されました。また、精神障害者にかかわることとして纏められてきた精神保健福祉について、社会のニーズに応じて多様に広がることを、精神保健福祉の「拡散」としてとらえずに、新たな精神保健福祉の方向として捉え、精神保健福祉の進むべき方向を示されました。吉川先生はまさに「ミスター精神保健」という方であったと思います。吉川先生から宿題として残されたことは、本協議会の会員を都道府県だけでなく、各地の地方自治体に広げていくことです。それはこれから真剣に取り組んでいこうと思います。吉川先生、ありがとうございました。

公益社団法人日本精神保健福祉連盟役員並びに名誉会長一覧

平成27年7月現在

1. 理事 (15名)

【代表理事 2名】

会長	公益社団法人日本精神科病院協会 名誉会長	鮫島 健 (非常勤)
理事長	国際医療福祉大学大学院教授・慶応義塾大学医学部客員教授	鹿島 晴雄 (〃)

【常務理事 3名】

常務理事	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 副会長	竹島 正 (〃)
	日本精神衛生学会 常任理事	大西 守 (〃)
	公益社団法人日本精神科病院協会 副会長	富松 愈 (〃)

【理事 10名】

理事	公益財団法人日本精神衛生会 理事長	牛島 定信 (〃)
	公益財団法人復光会 常勤理事	佐藤 譲二 (〃)
	公益財団法人矯正協会 総務企画部副部長	米谷 和春 (〃)
	公益社団法人全日本断酒連盟 理事長	中田 克宣 (〃)
	一般社団法人日本精神科看護協会 業務執行理事	早川 幸男 (〃)
	公益社団法人アルコール健康医学協会 理事長	田中 慶司 (〃)
	公益社団法人日本精神神経科診療所協会 会長	渡辺 洋一郎 (〃)
	公益社団法人日本精神保健福祉士協会 相談役	竹中 秀彦 (〃)
	公益社団法人日本精神科病院協会 理事	大野 史郎 (〃)
	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 理事	高畑 隆 (〃)

2. 監事 (2名)

	公益社団法人日本精神科病院協会 (医療法人社団根岸病院 理事長・院長)	松村 英幸 (〃)
	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 監事	丸山 晋 (〃)

3. 名誉会長 (3名)

	公益社団法人日本精神科病院協会 名誉会長	栗田 正文
	慶応義塾大学名誉教授	保崎 秀夫
	公益社団法人日本精神科病院協会 名誉会長	仙波 恒雄

【役員任期 平成27年6月19日より平成29年の定時社員総会終了まで】

注1 公益社団法人日本精神保健福祉連盟定款 第27条 (役員任期) によるものとする。

〈編集後記〉

連盟だよりNo. 53をお届けします。

さて本号では、公益財団法人復光会の佐藤譲二常勤理事からご玉稿をいただきました。深く感謝申し上げます。歴史ある復光会が時代のニーズに対応しながら発展してきたことがよくわかりました。

また、公益財団法人日本精神衛生会が毎年開催されている「メンタルヘルスの集い」も盛況のうちに終了されたことお慶び申し上げます。いつも、精神保健福祉分野での喫緊の課題を取り上げられ、とても興味深いものです。

さて、当連盟の常務理事であられた吉川武彦先生が急逝されました。心よりお悔やみ申し上げます。

今年度も、精神保健福祉全国大会の開催、全国障がい者スポーツ大会への精神障がい者バレーボール競技の参加など、多くの事業が予定されております。引き続き、関係団体の方々のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

(M. O.)

編集委員会

委員長	大西 守	公益社団法人日本精神保健福祉連盟常務理事
委員	仲野 栄	一般社団法人日本精神科看護協会専務理事
	高畑 隆	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会理事
	塩入 祐世	公益社団法人日本精神神経科診療所協会会員 東京精神神経科診療所協会理事
	寺田 一郎	(社福)ワーナーホーム理事長

発行 平成27年7月

発行者 公益社団法人 日本精神保健福祉連盟
会長 鮫島 健

〒108-0023 東京都港区芝浦3-15-14

TEL 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309

Email : f-renmei@nisseikyo.or.jp

HP : <http://www.f-renmei.or.jp>

印刷 社会福祉法人 新樹会 創造印刷